

医師不足、国家試験合格率 90% 過剰気味の歯科医師は 63% 3人に1人が不合格な時代へ

かつて、日本が高度成長期を迎えた 60~70 年代は、歯医者さんに患者が押し寄せました。ところが、口腔衛生の意識が向上し、虫歯で歯が真っ黒という子供はほとんどいなくなりました。「みそっば」という言葉も聞かなくなりました。



一方で、歯医者さんの数がどんどん増えてしまい、今やコンビニより歯科医院の数が多い状況となりました。歯科医師国家試験の合格率も 03 年までは医師国家試験と同様に、ほぼ 8~9 割で推移していました。しかし、このままでは、ますます歯科医師数が過剰になると推計されたことから、06 年に文部科学大臣と厚生労働大臣が「歯科医師の養成数の削減等に関する確認書」を取り交わし、歯学部定の員削減を各大学に要請するとともに、「歯科医師国家試験の合格基準を引き上げる」、つまり合格率を低くすることにしました。



それに対し、医師は不足している為合格率は 90%。ほぼ合格です。

競争率が高くなった歯科医師国家試験。これからは優秀な歯科医師ばかりになるのでしょうか……。

インプラントも自分の歯もケアが大切

近年、歯を失ったところにインプラント（人工歯根）治療を施すケースが非常に増えて、いまやインプラント治療は特別な治療法ではなくなってきました。入れ歯からインプラントへの治療法の転換が実に多くの人々の快適な食生活を齎している。という事実の反面、何らかの問題を抱えていることが、歯科の学会で報告されています。その問題の多くはインプラント周囲炎といういわゆる、インプラント周囲の歯槽膿漏といわれています。インプラントは、以前に歯が在った状態とほぼ同様の機能を果たし、自分の歯を無くす前とほぼ変わらない生活を送れる、優れた治療法であるために爆発的に増加してきました。

しかし、それに伴いインプラント周囲の歯槽膿漏に罹るケースも非常に多くなっています。歯槽膿漏は自覚症状がほとんど無く、ひそかにインプラントを支えている顎の骨が溶解し、痛みや、インプラントの揺らぎが生じて初めて気がつき、インプラントを撤去せざるを得ない状態になってきます。インプラントは天然の歯とは異なり、無機物のため自主再生機能を持っていないためにひとたび細菌感染すれば自然に治癒することはありません。そのため日頃からの、セルフケア（自己管理）とプロフェッショナルケア（専門家による管理）の2面管理で歯槽膿漏（細菌感染）を未然に防ぐことが最も重要になります。日常のケア（管理）がしっかりとできていれば、インプラントは天然の歯と何ら変わらず、素晴らしい、快適な生活を送れ、生涯にわたって機能してくれる素晴らしい治療法である事をお約束します。

今回はインプラントに関する記事でしたが、上記の問題点は、天然の歯と全く同様に、天然の歯もケアをしなければ当然、失ってしまいます。まずは、自分の歯をなくさない努力が最も重要です。

理事長 木原和喜談



猫にも歯周病

人間と同じように猫にも歯周病がとても多いというのをご存知でしょうか。毎日適切な歯磨きをしないと細菌が繁殖し、歯垢がたまり歯石となり歯肉炎や歯周病へと進行していきます。メカニズムは人間とまったく変わりません。猫は歯肉が腫れて痛くても痛いとさえ言えず、飼い主がサインを見逃さないようにするほか手立てはありません。歯が抜けてやっと気付く飼い主が大半です。

我が家には二匹の猫がいます。毎晩歯磨き粉入りシートを指に巻きつけ強引に口を開けゴシゴシ歯を磨いていきます。たまに白目になっている時がありホラーです。最後に予防効果のあるスプレー式のジェルで終了です。効果の程は分かりませんが猫たちの歯磨きタイムは日々戦いです。



東戸塚医院
畑 紀子

『いびきや居眠りは要注意』ってご存知ですか？

木原歯科・内科医院では内科での診断から、歯科によるマウスピース治療を一貫して行うことができます!!

いびきをかくのは熟睡している証拠と思われがちですが、
実はいびきをかく人ほど、睡眠が深くとれていないことが多いのをご存知ですか？
知らず知らずのうちに、無呼吸症や慢性疾患などを引き起こしているかもしれません。

いびきは病気のサイン?!



無呼吸症とは睡眠中に呼吸が止まった状態(無呼吸)

または呼吸が弱くなった状態(低呼吸)が断続的に繰り返される病気です。

その結果十分に睡眠がとれず、日中の眠気、集中力・活力に欠ける、
居眠りがちになる、居眠り運転で重大事故などを起こしやすくなります。

また、無呼吸と低呼吸を繰り返すことによって低酸素状態がおこり、心臓に負荷をかけ、高血圧・糖尿病・心筋梗塞・脳卒中などの合併症を起こしやすくなるといわれています。

治療方法は、生活習慣の改善だけでは難しい場合、症状に合わせて鼻にマスクを装着して空気を気道に送り込む**CPAP療法**や舌が沈下しないようにマウスピースを装着する**マウスピース療法**などがあります。

CPAP療法



中等症から重症で
最も多く行われる
治療

マウスピース治療法



軽症から
中等症までの治療

木原歯科・内科医院では医科と歯科が連携し、

内科による無呼吸症の診断から歯科によるマウスピース治療を一貫して行うことができます。

自分では気付いてなくても、ご家族やご友人などからいびきや居眠りを指摘されたら・・・
まずは、お気軽に当医院までご相談ください。

新人紹介

新杉田医院勤務



神松なずな (かみまつ・なずな)
物怖じせず、
何でもテキパキこなします。
パン屋さんでアルバイトの経験があるので、パンには詳しいかもしれません・・・。

東戸塚医院勤務



小島志由子 (こじま・しゅうこ)
いつも微笑みを忘れない、
真面目な勉強家。
おとなしく、おっとり系に見えますが、実は違うようです・・・。

*これから、皆様のお役にたてるスタッフになるよう指導して参ります。